

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 寛善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ～

会場： コクヨホール(東京都)

一般講演Ⅳ

座長： 琉球大学 齋藤 誠一

17. 前立腺癌の密封小線源治療後排尿障害 における牛車腎気丸の使用経験

信州大学医学部 泌尿器科学教室

○大門 裕典、皆川 倫範、道面 尚久
小川 輝之、石塚 修

【緒言】前立腺癌に対する密封小線源治療後における下部尿路症状（ブラキ後LUTS）に対し、 $\alpha 1$ ブロッカーが有効である。しかし、 $\alpha 1$ ブロッカーが効果不十分な症例は多々存在し、その対応には難渋する。また、ブラキ後LUTSに於いて漢方が有効であったとの報告は少ない。今回我々は、ブラキ後LUTSに対し、 $\alpha 1$ ブロッカーが効果不十分であった症例で、牛車腎気丸を使用した症例の検討を行った。

【対象と方法】2013年3月から2016年3月まで、当院で密封小線源治療を行った患者で、治療開始から1年以内のブラキ後LUTSに対して牛車腎気丸を処方した患者を対象とした。対象の全症例は牛車腎気丸処方以前に $\alpha 1$ ブロッカー（塩酸タムスロシン）が処方されていた。牛車腎気丸を処方した日を観察開始日とし、3か月ごとに国際前立腺症状スコア（IPSS）、QOL index、過活動膀胱症状スコア（OABSS）、残尿量で評価した。炎症に関して検尿と血液検査（WBC, CRP）を用いて評価を行った。観察終了日は密封小線源治療開始から1年経過した時点とした。

【結果】対象は4症例で、平均年齢は69.7歳であった。観察期間は9か月が2症例、3か月、6か月がそれぞれ1症例であった。LUTSの経時的変化として、牛車腎気丸の内服開始以降、IPSSは改善傾向を示し、6か月時点では有意に改善を認めていた。QOL index、OABSS、残尿量に関しても牛車腎気丸開始から6か月まで改善傾向を認めていた。また、尿検査、血液検査所見で異常所見を呈した症例は認めなかった。経過中、牛車腎気丸に関連すると思われる有害事象は認めなかった。

【考察】一般的にブラキ後LUTSは小線源刺入の1～3か月後まで増悪し、その後徐々に改善する。しかし、その発症機序は明らかでなく、症状が遷延する症例も存在する。一方、牛車腎気丸を含めた漢方薬は一般のLUTSに効果があるとの報告があるが、ブラキ後LUTSへの効果は不明である。本検討では $\alpha 1$ ブロッカーで効果不十分であったブラキ後LUTSに対し、牛車腎気丸内服によってIPSS、QOL index、OABSS、残尿量の改善を認めた。牛車腎気丸によるブラキ後LUTSの有効性が示唆された。放射線による神経障害に対して牛車腎気丸が治療的に作用した可能性があるが、少数例で単群の検討であるのでさらなる検討が必要である。

【結語】 $\alpha 1$ ブロッカーの効果が不十分なブラキ後LUTSに対する牛車腎気丸の有効性が示唆された。